

豊富な地下水を活用

ぎふ・広がる

再生可能エネルギー

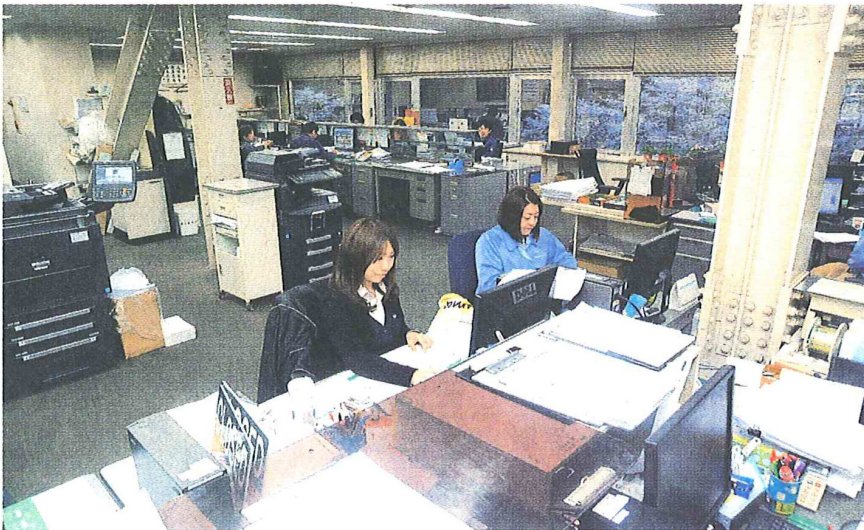
地下水の豊富な岐阜県。そのメリットを生かそうと地中熱や地下水を空調に使う県内企業が、じわりと増えている。

コンビニ店舗の棚を作る棚橋工業(岐阜市芥見東山)。事務担当の宮田有美さん(25)はこの冬、足元に置いた電気ヒーターを使わなかった。「部屋全体が暖かくて、膝掛けも使わなかった」。昨年末に稼働した地中熱空調システム。「暖かさが違ふ」と社員に好評だ。

従来から製品の洗浄用に井戸水を使っていた。

井戸水の熱を空調に使えばコストを抑えられ、環境にも優しい。そう考え国からの補助金も受け、1150万円掛けて導入した。初期コストは数百万円割高になったが、年間で42万円ほど燃料代を減らせそうだ。不破裕康

地中熱空調、県内企業に広がる



総務部長(62)は「これまですぐ近くにエネルギーがあることを知らず、捨

◇ 3 ◇

てていた」と話す。夏冷たく冬暖かい地下水を部屋の冷暖房に使う地中熱空調は、東京スカイツリーにも導入される。

行政も注目、費用助成

助成する。

「岐阜市や大垣市はプールの上に浮かんでいるようなもの」と表現する関係者もいる。長良川などの伏流水、地盤沈下しにくい砂利を多く含んだ地盤。なにより地下水が暮らしに浸透しているため井戸が多く、初期投資を抑えられる。建設コンサルタントのティコク(岐阜市青柳町)は同市日光町の自社ビルに地中熱空調を取り入れている。使っていないかった井戸を活用した。新しく掘れば1千万円は超えたという。

地下水を使った空調を採用した棚橋工業の事務所。部屋全体がまんべんなく暖かいと社員にも好評だ。岐阜市芥見東山、同社

井戸水は熱を交換するだけで水質は変わらないので、そのまま流すことができる。地下水は無料、処理費用も掛からない。2012年2月の稼働以来、水があふれたりするトラブルはないという。行政も注目する。大垣市は本年度から地下水利用地中熱ヒートポンプの設置に上限100万円を